

令和7年度 奈良市市民意識 調査結果（概要版）

令和8年3月

奈良市

目 次

〈 調査実施の概要 〉	1
1. 奈良市での生活について（問1～4）	4
2. 日ごろの生活について（問5～8）	6
3. 市政について（問9～14）	8
4. 奈良市への愛着や誇りについて（問15～18）	18

〈 調査実施の概要 〉

1 調査の目的

市民の皆様にご日々の生活で感じていることや市政についてのご意見などをお尋ねし、これからの市政のあり方を考えていくにあたっての基礎資料とするため、奈良市民意識調査を実施しました。

2 調査について

- (1) 調査地域 奈良市全域
- (2) 調査対象 奈良市内在住の18歳以上の男女各1,500人 計3,000人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から層化無作為抽出
- (5) 調査方法 配布：郵送、回収：郵送及びインターネット回答
- (6) 調査期間 令和7年9月3日(水)～10月3日(金)
(ただし期間後に到着した調査票も10月10日到着分まで集計対象とした)

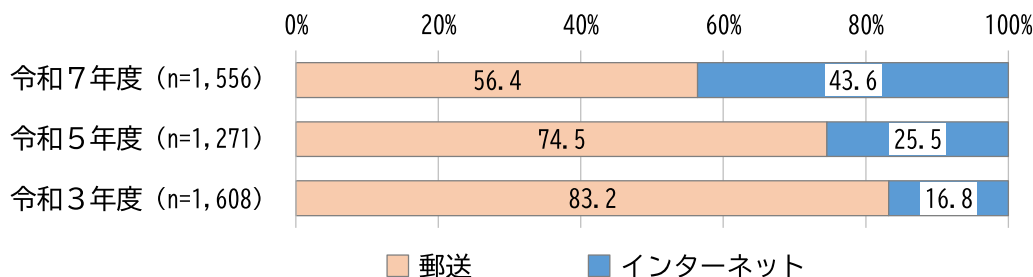
3 回収状況

	有効回答数(人)	有効回収率(%)
合計	1,556	51.9
郵送	878	29.3
インターネット	678	22.6

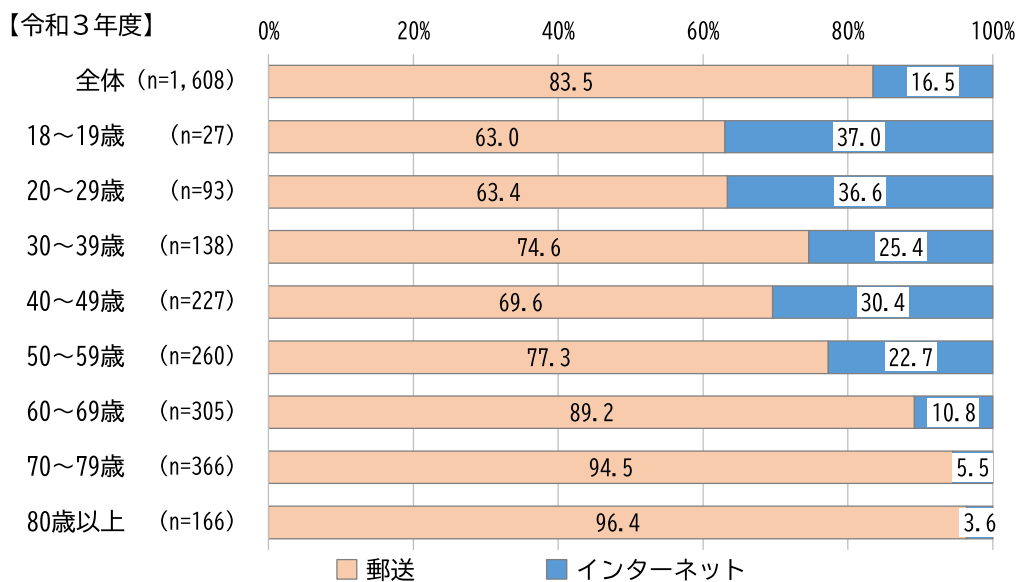
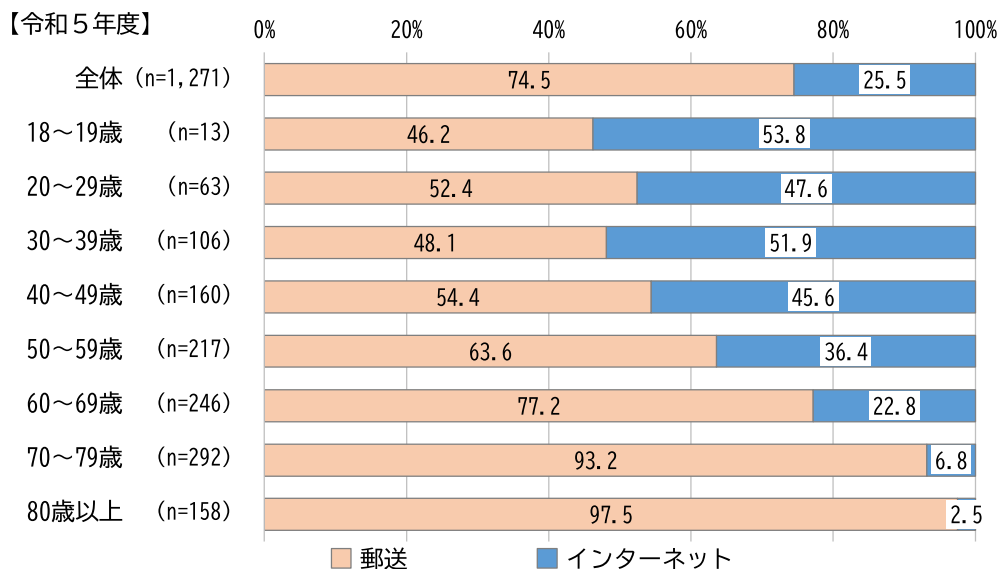
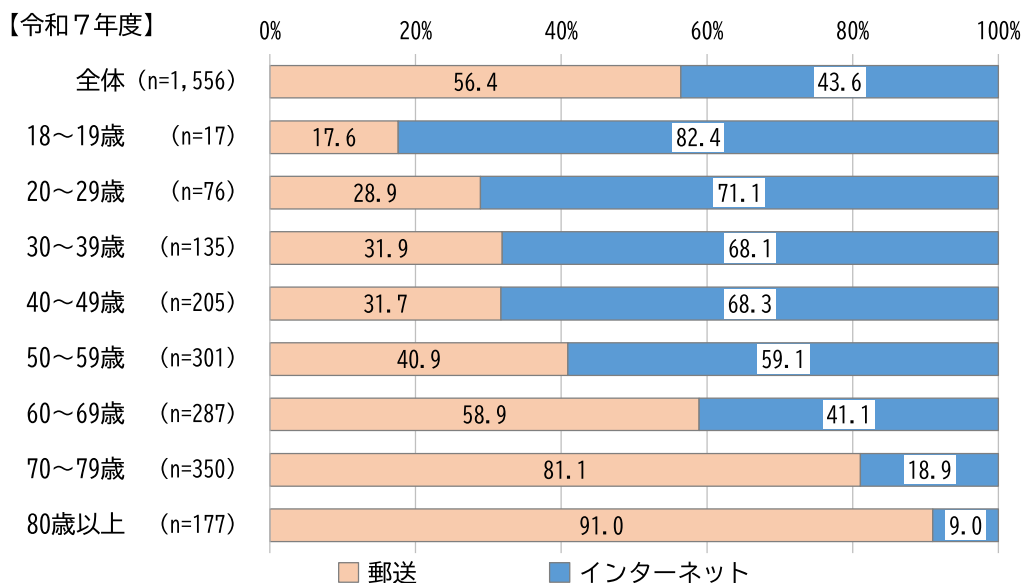
インターネット回答率

回収状況について、令和7年調査のインターネット回答率は43.6%で、令和3年度調査から今回にかけて増加しています。

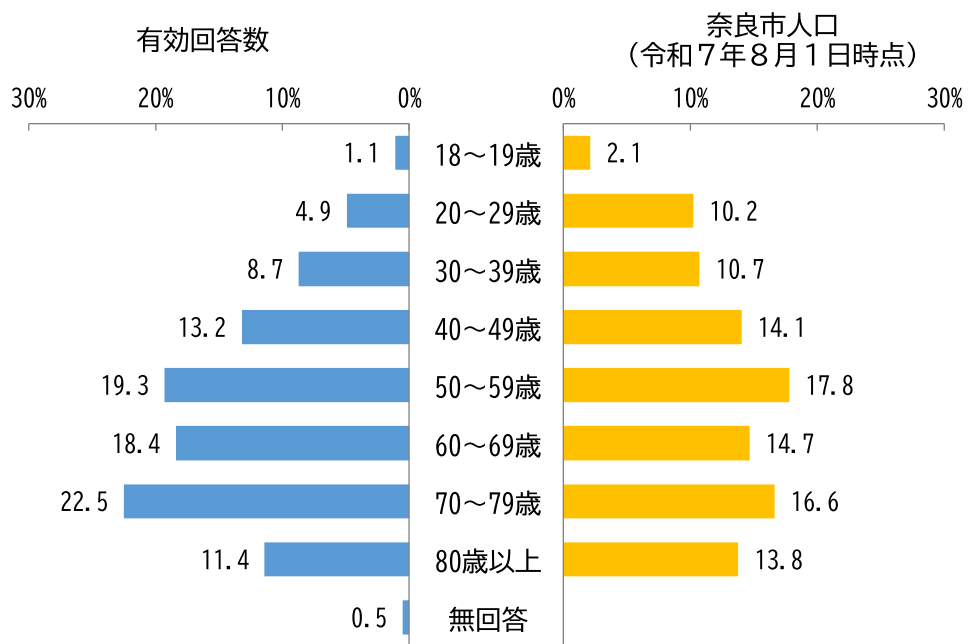
18～59歳ではインターネット回答が半数を超え、18～19歳で約8割、20～49歳で約7割、50～59歳で約6割と、年齢が低いほどインターネット回答率が高くなっています。いずれの年齢でも増加傾向にありますが、70歳以上では2割未満となっています。



インターネット回答率 年齢（10歳区分）別



4 有効回答数と奈良市人口の構成割合の比較



1. 奈良市での生活について（問1～4）

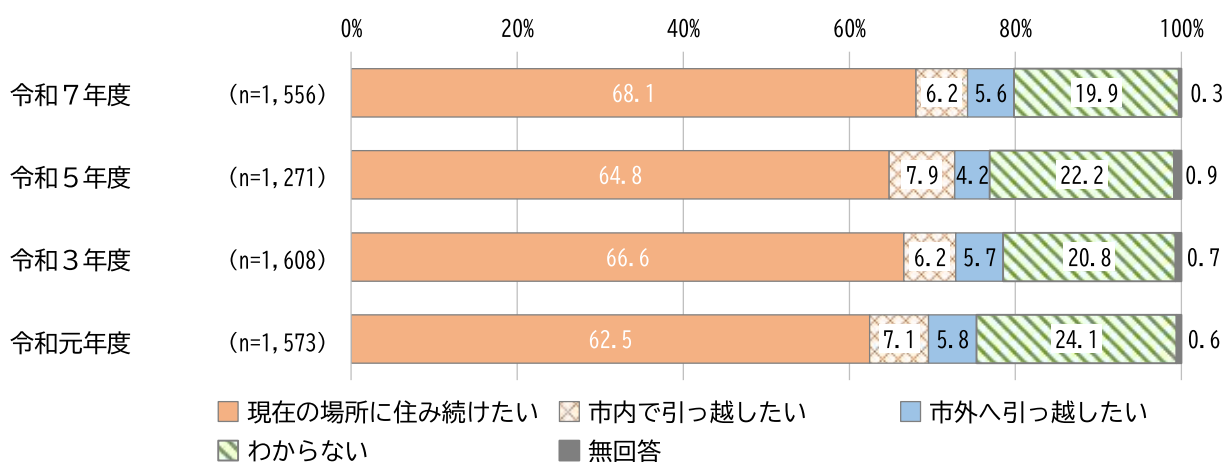
テーマの結果概要

- 奈良市の居住年数は、「51年以上」が21.0%と最も高く、31年以上の方が56.2%と約5割半を占めています。（問1）
- 現住所の直前に住んでいたところは、「奈良市内の別の地域」が30.6%で、約6割は市外。（問2）
- 転居のきっかけは、「住宅・マンションの購入」が36.5%と最も高く、次いで「結婚」が25.1%となっています。（問2-1①）
- 現住所を転居先を選んだ理由は、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が37.4%と最も高く、次いで「住まいの周辺が静かだから」が24.9%となっています。（問2-1②）
- 住んでいる地域が住みやすいかについて、「住みやすい」（45.3%）と「どちらかといえば住みやすい」（40.3%）の合計が85.6%となっています。
- 68.1%の方が「現在の場所に住み続けたい」と回答し、5.6%の方が「市外へ引っ越したい」と回答しています。（問4）
- 市外へ引越す場合のきっかけは、「就職・転勤」が25.3%、「子どもの成長・独立」が18.4%となっています。（問4-1①）
- 転居先として奈良市を選ばない理由は、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよくないから」が40.2%と最も高く、次いで「日ごろの買い物等が不便だから」が26.4%となっています。（問4-1②）

Pick Up 1：居住する地域の住みやすさの状況（問4）

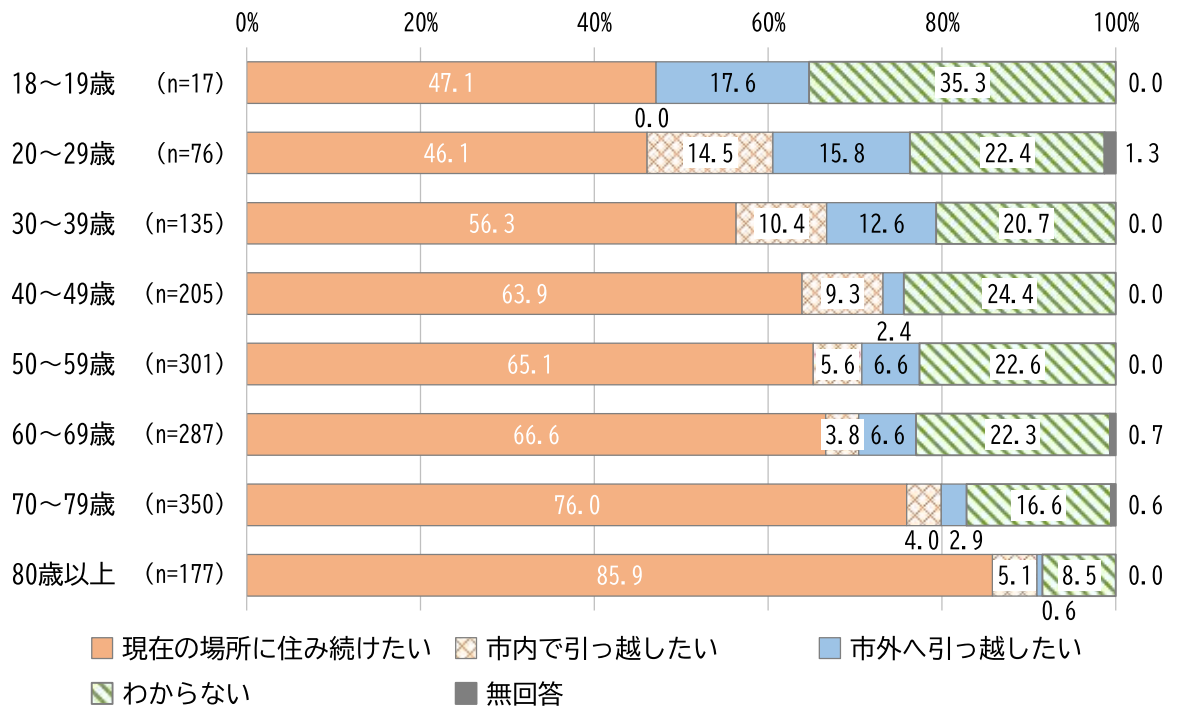
（1）単純集計

これからも住み続けたいかについて、「現在の場所に住み続けたい」が68.1%と最も高くなっており、令和5年度調査と比べると増加しています。



(2) クロス集計 年齢（10歳区分）別（問4×F2）

年齢別では、概ね年齢が上がるほど、「現在の場所に住み続けたい」が高くなっています。



※18～19歳はサンプル数が少ないため参考値

2. 日ごろの生活について（問5～8）

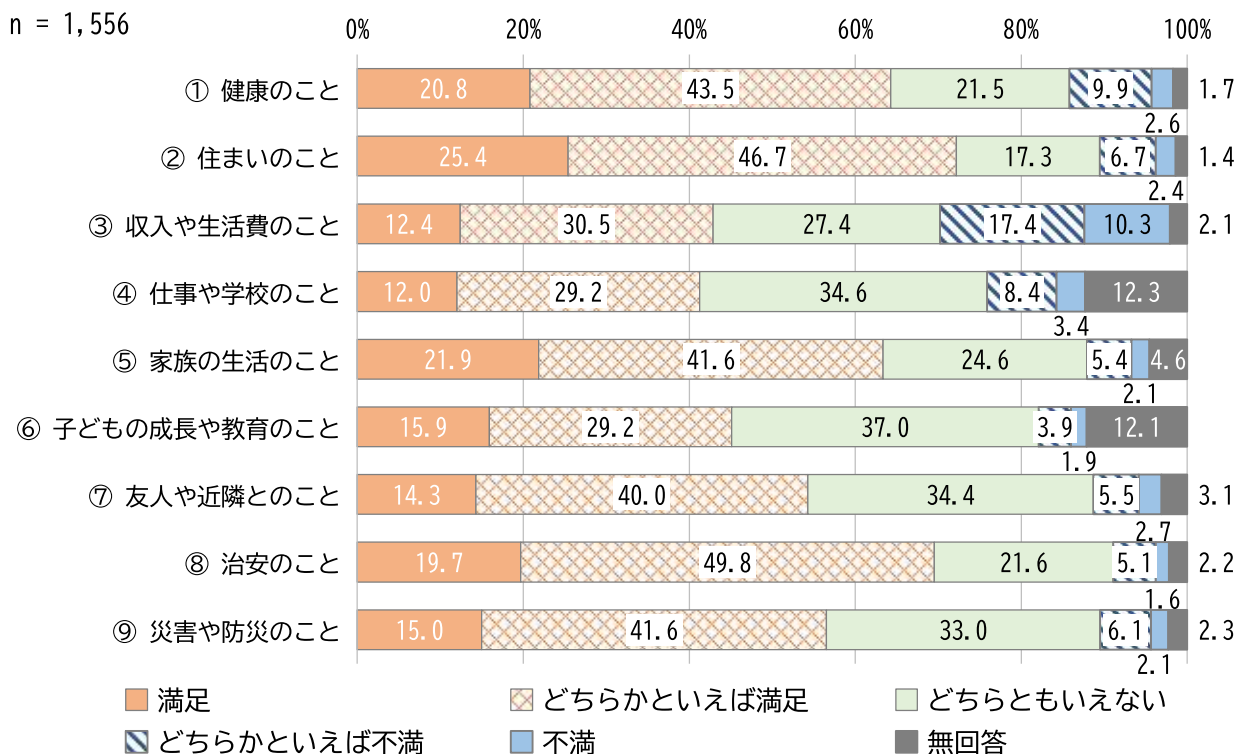
テーマの結果概要

- 今の生活の満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」と答えた割合は、「住まいのこと」が72.1%と最も高く、次いで「治安のこと」が69.5%となっています。一方、「仕事や学校のこと」が41.2%で最も低くなっています。（問5）
- 今の生活全般の満足度は、「満足」（21.3%）と「どちらかといえば満足」（53.0%）の合計が74.3%となっています。（問6）
- 相談ごとがあるときの相談相手について、「家族や親族」が82.0%と最も高く、次いで「隣近所の人や知人・友人」が32.1%となっています。（問7）
- 休日の余暇を過ごすのに普段よく行く場所について、「奈良市内」が86.8%と最も高く、次いで「大阪市」が29.0%、「大和郡山市」が26.1%となっています。（問8）

Pick Up 1：今の生活の満足度（問5）

（1）単純集計

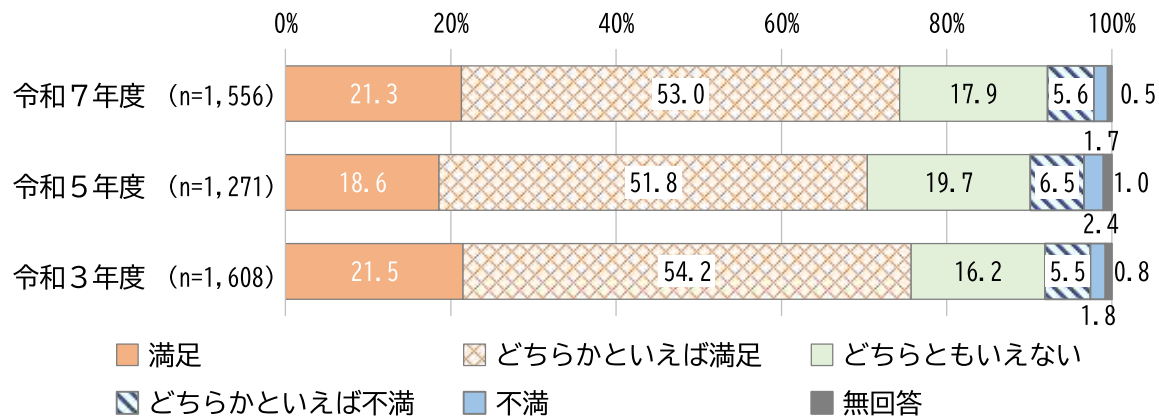
今の生活の満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計は、「②住まいのこと」が72.1%と最も高く、次いで「⑧治安のこと」が69.5%となっています。一方、「④仕事や学校のこと」が41.2%で最も低くなっています。



Pick Up 2 : 今の生活全般の満足度 (問6)

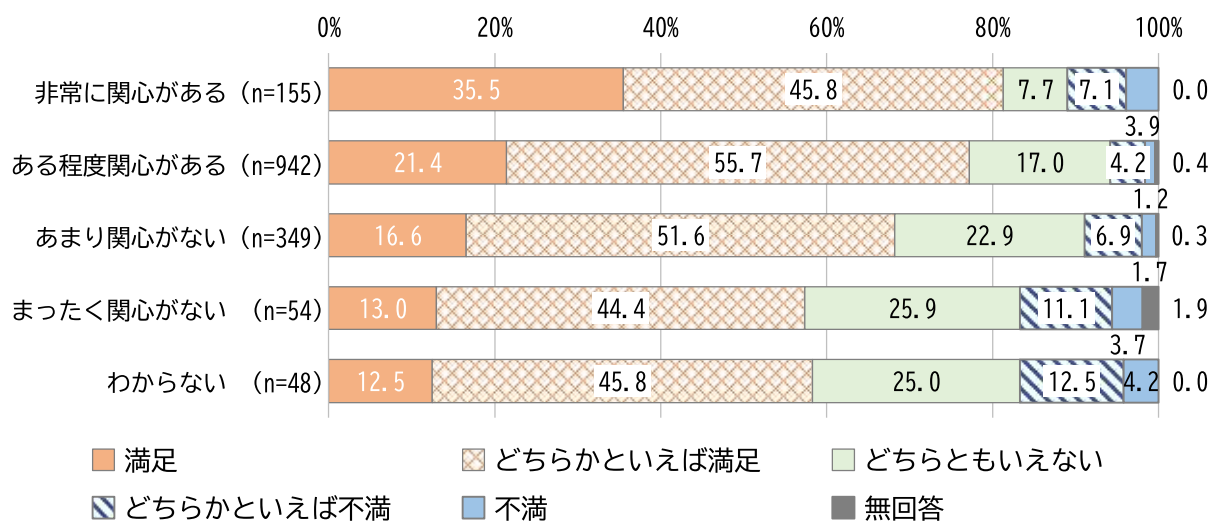
(1) 単純集計

今の生活に満足しているかについて、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が 74.3%で、令和5年度調査と比べると増加しています。



(2) クロス集計 まちづくりの取組への関心別 (問6×問9)

市政への関心別では、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計は、非常に関心があるで 81.3%と最も高くなっており、まったく関心がないで 57.4%と最も低くなっています。



3. 市政について（問9～14）

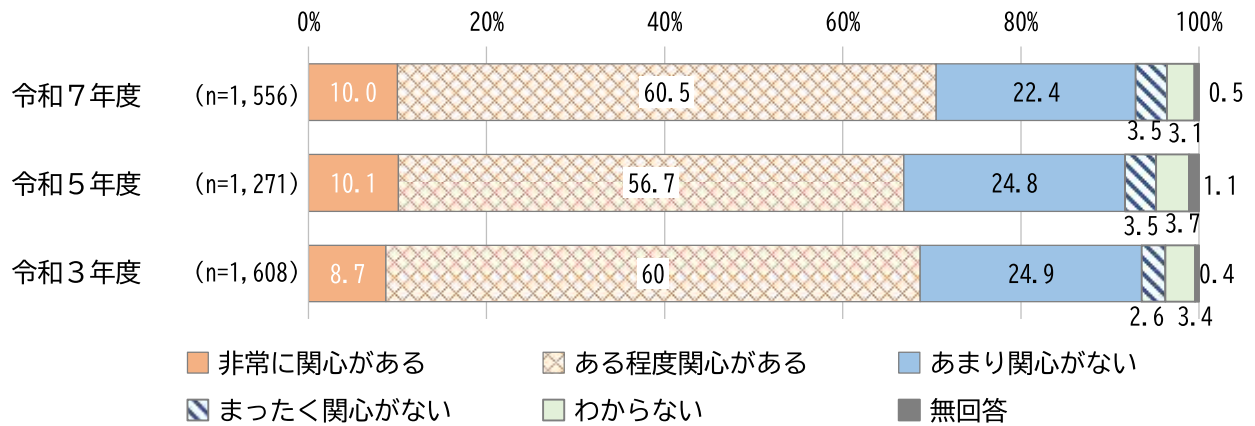
テーマの結果概要

- 市政への関心は、「非常に関心がある」（10.0%）と「ある程度関心がある」（60.5%）の合計が70.5%となっています。（問9）
- まちづくりの取組への関心は、「非常に関心がある」（6.4%）と「ある程度関心がある」（52.6%）の合計が59.0%で、令和5年度調査と比べるとやや増加しています。（問10）
- まちづくりの取組への参加については、「参加している」（18.2%）と「参加してみたいができていない」（29.8%）の合計が48.0%となっています。（問11）
- 参加しているまちづくりの取組や、今後参加してみたいまちづくりの取組は、「自治会・町内会活動」が37.3%と最も高く、次いで「祭り等の伝統行事」が27.9%、「環境美化活動」が24.2%、「避難訓練等の防災活動」が22.6%となっています。（問12）
 - ※ まちづくりの取組
「地域おこしのイベント活動」「環境美化活動」「祭り等の伝統行事」「子ども会等の教育活動」「避難訓練等の防災活動」「懇親会、親睦会等コミュニティ活動」「交通安全に関する活動」「音楽・スポーツ等のサークル活動」「乳幼児保育に関する子育て活動」「高齢者、障がい者の支援等の福祉活動」「空き巣、放火防止等の防犯活動」「地域の活性化に関する活動」「自治会・町内会活動」等
- まちづくりの取組に参加していない主な理由は、「仕事で都合がつかない」が38.9%と最も高く、次いで「体力や健康の問題」26.3%、「活動を知らない」が24.5%となっています。（問13）
- 奈良市の取組で評価するものについては、「文化遺産」が41.3%で最も高く、次いで「消防・救急」が35.1%、「生活・環境衛生」が33.8%。（問14）
- 一方で今後さらに力を入れるべき重要だと思うものについては、「消防・救急」が77.1%で最も高く、次いで「医療と健康」が75.1%、「防災対策」が74.9%。（問14）

Pick Up 1 : 市政への関心 (問9)

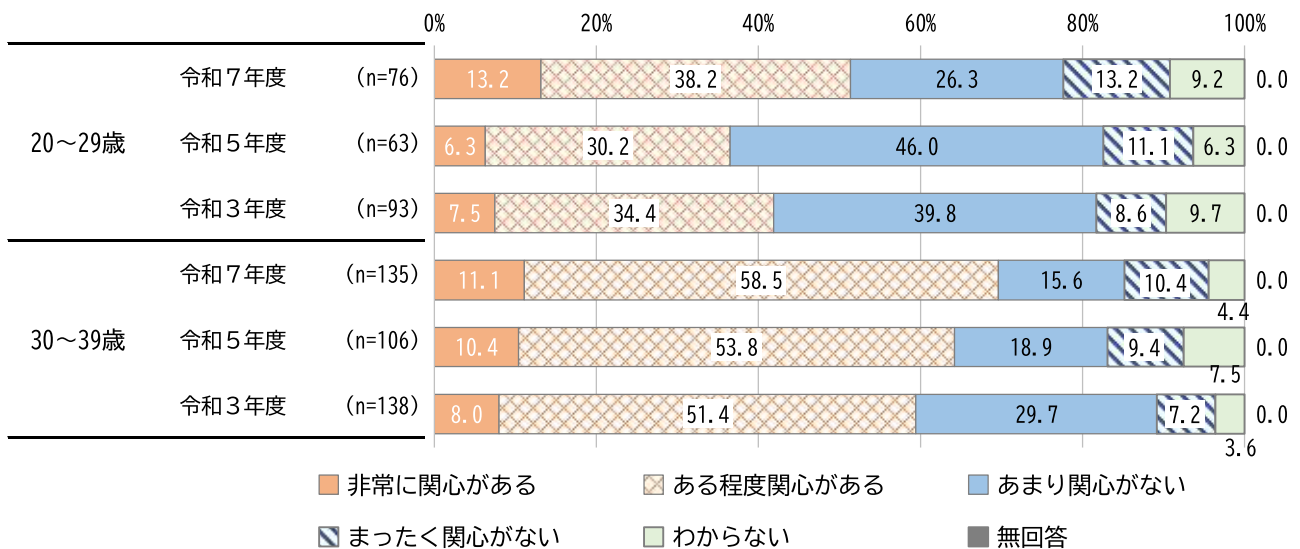
(1) 単純集計

市政に関心があるかについて、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合計が70.5%で、令和5年度調査と比べると増加しています。



(2) クロス集計 年齢別 (20~29歳、30~39歳) (問9×F2)

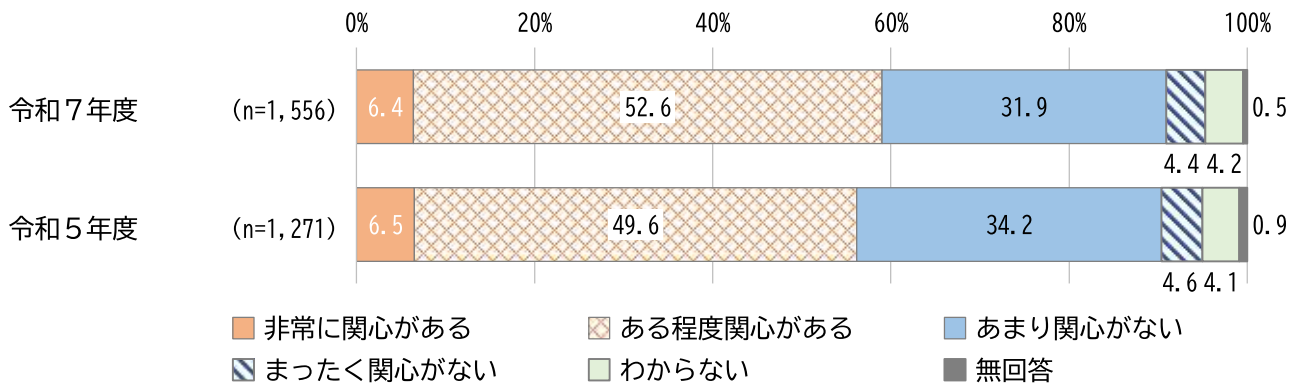
「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合計は、20~29歳では51.4%と低くなっていますが、過去の調査と比べると、令和5年度調査から増加しています。30~39歳でも令和3年度調査から今回にかけて増加傾向となっています。



Pick Up 2 : まちづくりの取組への関心 (問 10)

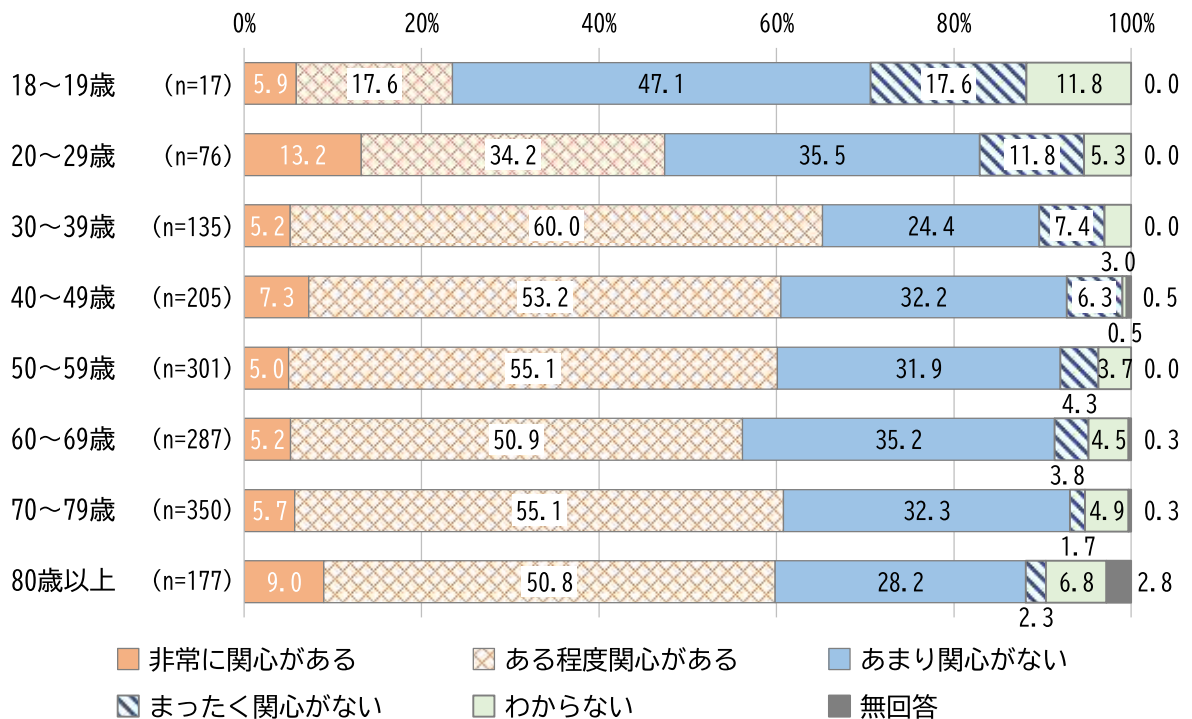
(1) 単純集計

まちづくりの取組に関心があるかについて、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合計が 59.0%で、令和5年度調査と比べるとやや増加しています。



(2) クロス集計 年齢別 (問 10×F 2)

年齢別では、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合計は、20～29歳では47.4%と低くなっていますが、60～69歳と80歳以上では5割台、30～59歳と70～79歳では6割台となっています。



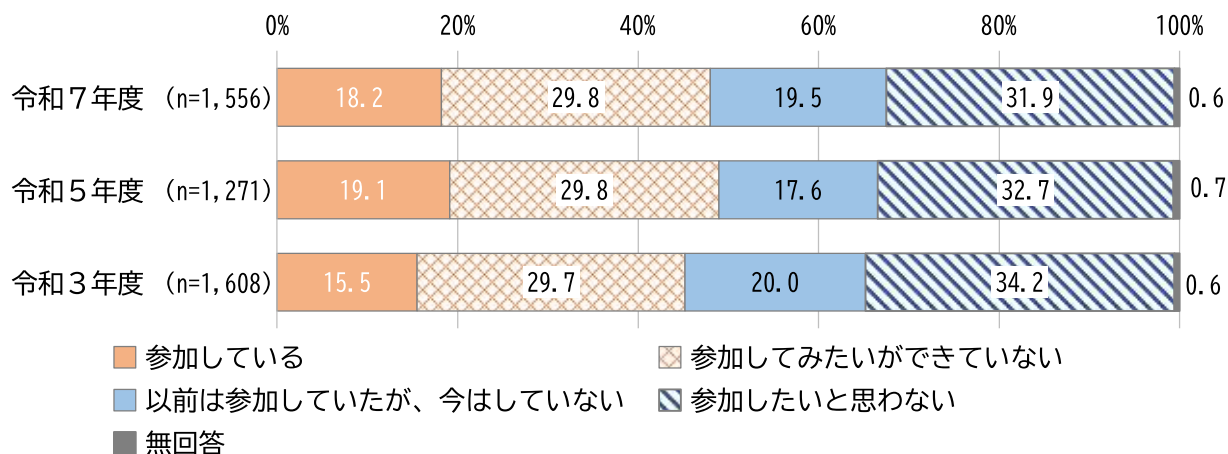
※18～19歳はサンプル数が少ないため参考値

Pick Up 3 : まちづくりの取組への参加状況 (問11)

(1) 単純集計

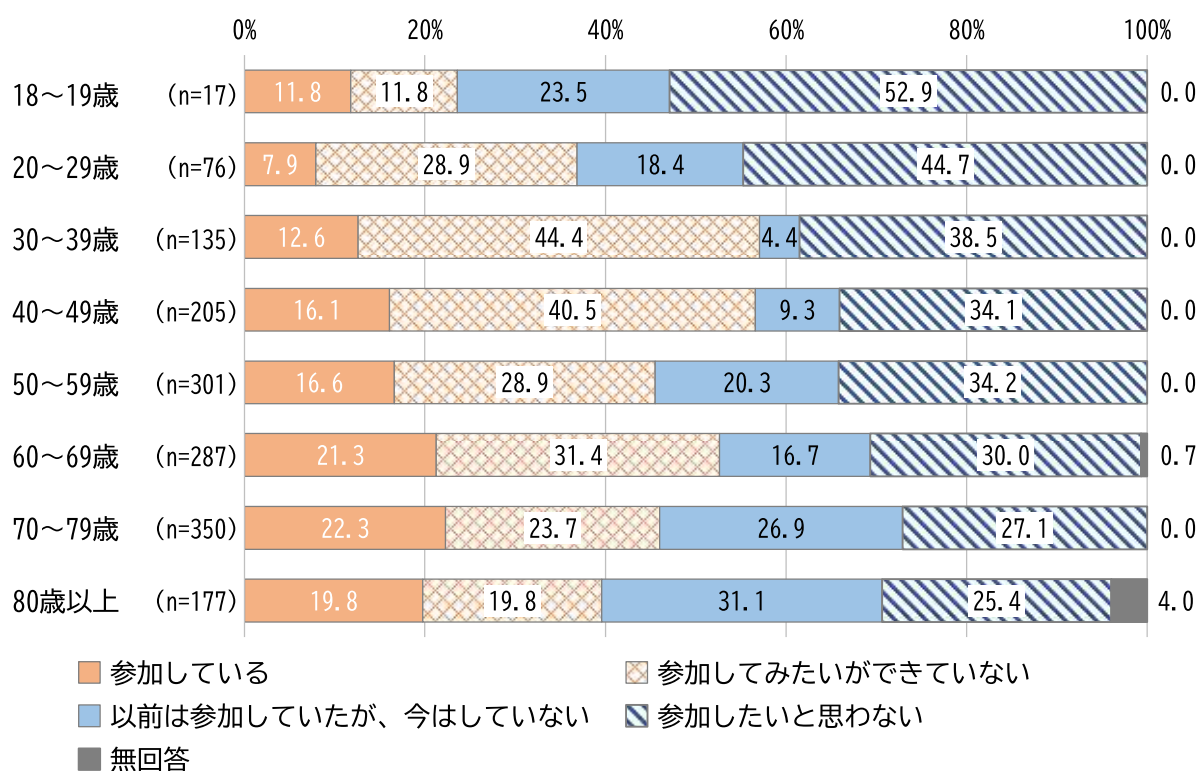
お住まいの地域や市内で行われているまちづくりの取組に参加しているかについて、「参加したいと思わない」が31.9%と最も高く、次いで「参加してみたいができていない」が29.8%となっています。

令和5年度調査と比べると、「参加している」が同水準となっています。



(2) クロス集計 年齢別 (問11×F2)

年齢別では、30～39歳、40～49歳、60～69歳では「参加してみたいができていない」が最も高く、特に30～39歳と40～49歳では4割台と高くなっています。20～29歳、50～59歳と70～79歳では「参加したいと思わない」が最も高く、特に20～29歳で44.7%と高くなっています。80歳以上では「以前は参加していたが、今はしていない」が31.1%で最も高くなっています。

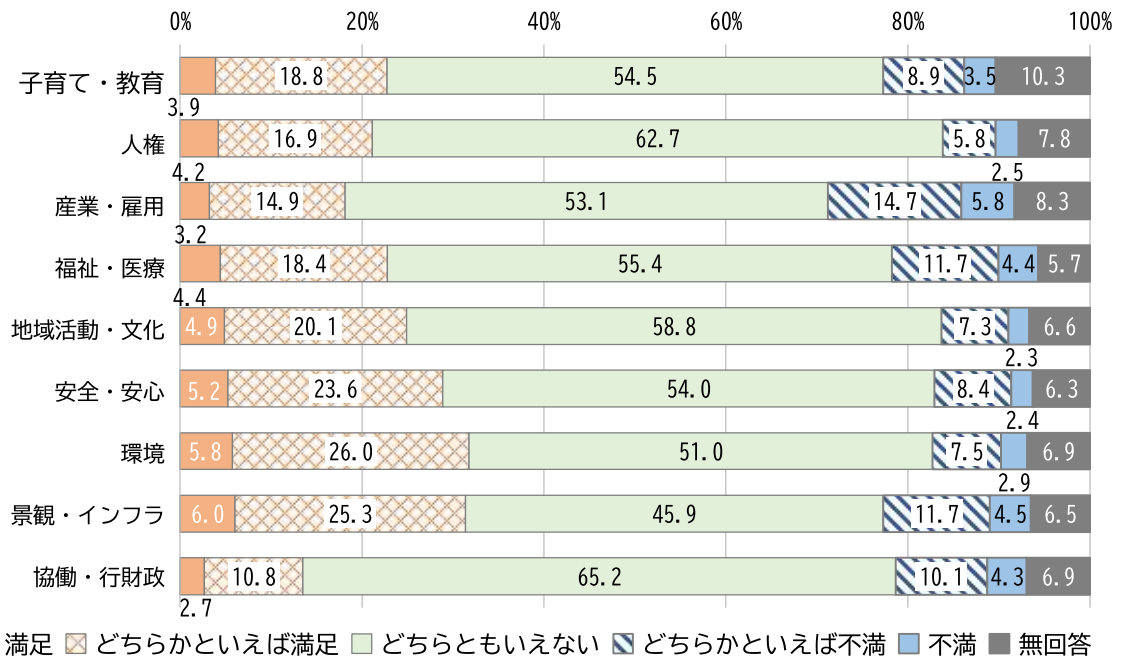


Pick Up 4 : 奈良市の取組で評価するもの (問 14)

(1) 単純集計

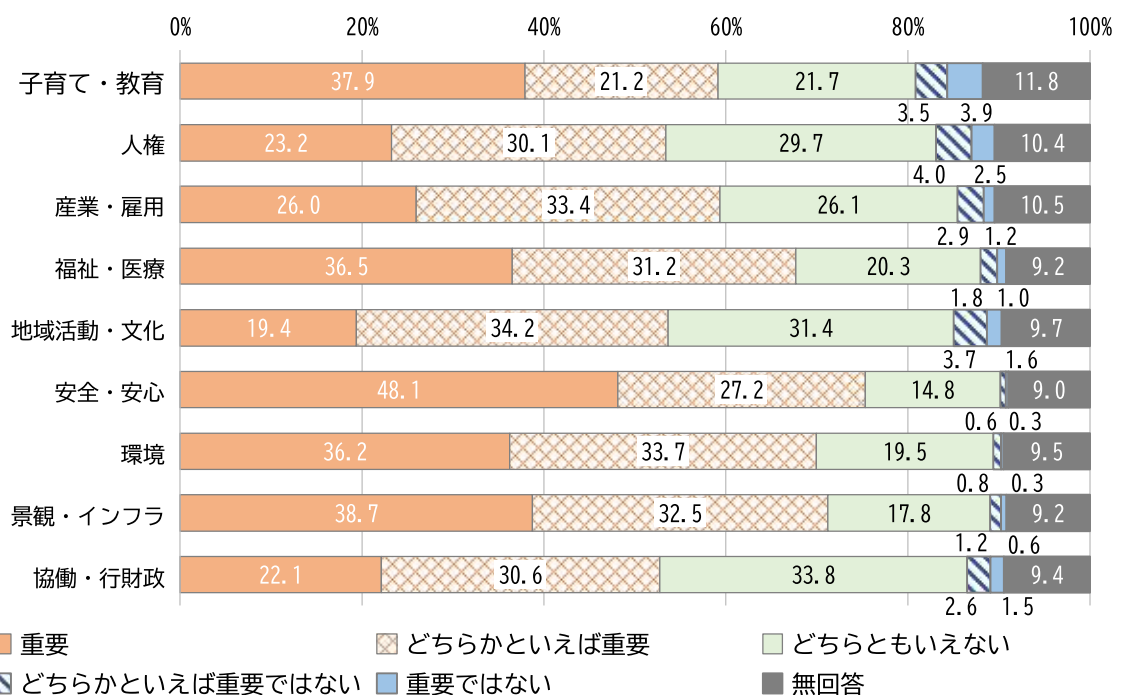
① 9つの分野の満足度 (評価)

評価する項目を9つの分野に分けると、「環境」と「景観・インフラ」について、「満足」又は「どちらかといえば満足」と答えた割合が約3割で高くなっています。



② 9つの分野の重要度

重視する項目を9つの分野に分けると、「安全・安心」について、「重要」又は「どちらかといえば重要」と答えた割合が最も高くなっています。

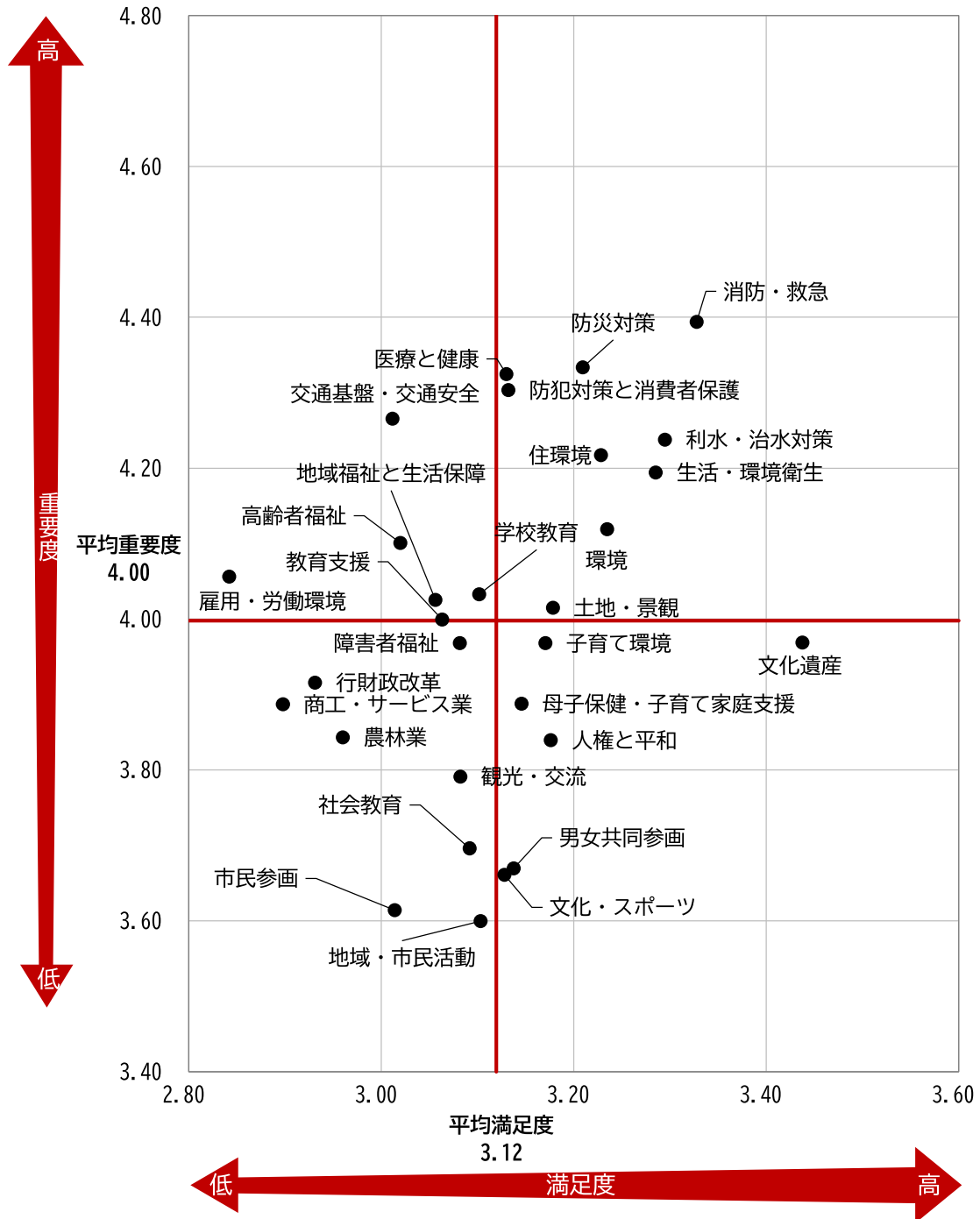


分野	取組
子育て・教育	母子保健・子育て家庭支援
	子育て環境
	学校教育
	教育支援
人権	人権と平和
	男女共同参画
産業・雇用	観光・交流
	商工・サービス業
	農林業
	雇用・労働環境
福祉・医療	地域福祉と生活保障
	障害者福祉
	高齢者福祉
	医療と健康

分野	取組
地域活動・文化	地域・市民活動
	文化・スポーツ
	社会教育
	文化遺産
安全・安心	防災対策
	消防・救急
	防犯対策と消費者保護
環境	環境
	生活・環境衛生
景観・インフラ	土地・景観
	交通基盤・交通安全
	住環境
	利水・治水対策
協働・行財政	市民参画
	行財政改革

※各取組の回答者数を合計して分野ごとの満足度・重要度を算出しました。

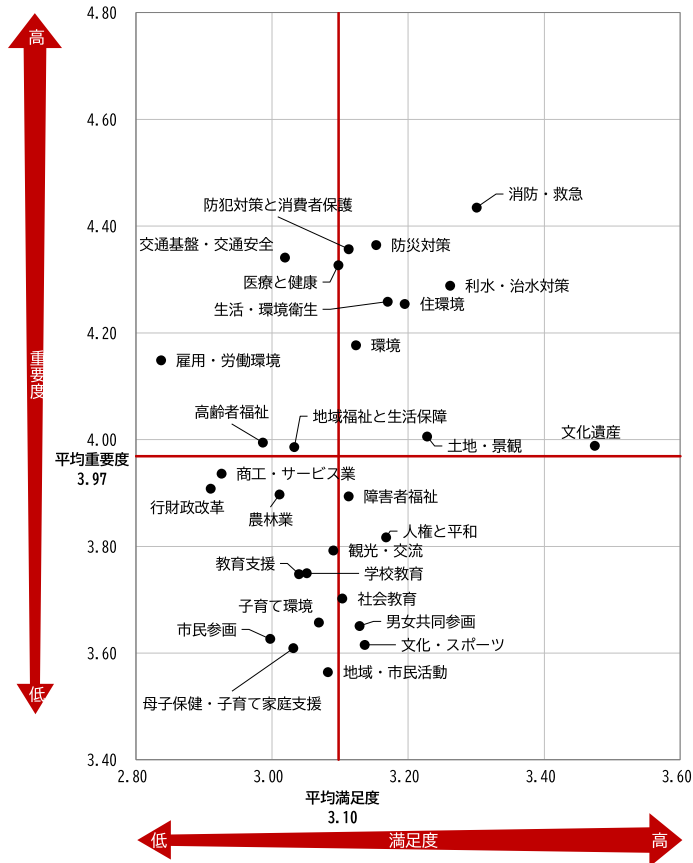
(2) 満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識



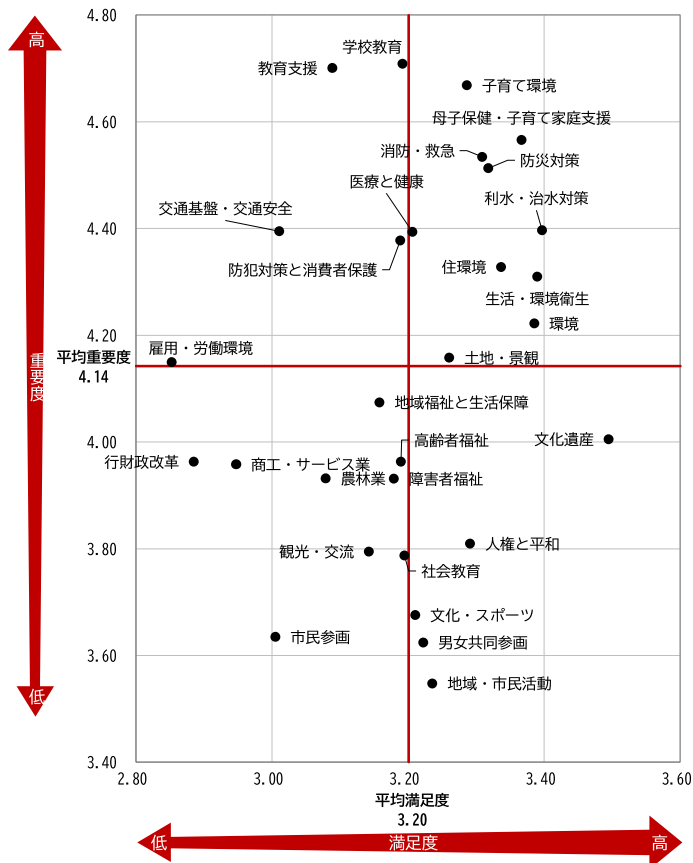
クロス集計にあたり、子どもの有無（F5）、子どもの状況（F5-1）を組み合わせて回答者を5のライフステージに分類しました。

属性	回答数(人)	割合(%)
全体	1,556	100.0
1 子どもなし	375	24.1
子どもあり 計	1,119	71.9
2 末子が小学校入学前または小学生	194	12.5
3 末子が中学生または高校生	103	6.6
4 末子が専門学生または大学生	68	4.4
5 末子が学校教育終了またはその他	754	48.5
その他・不詳	62	4.0

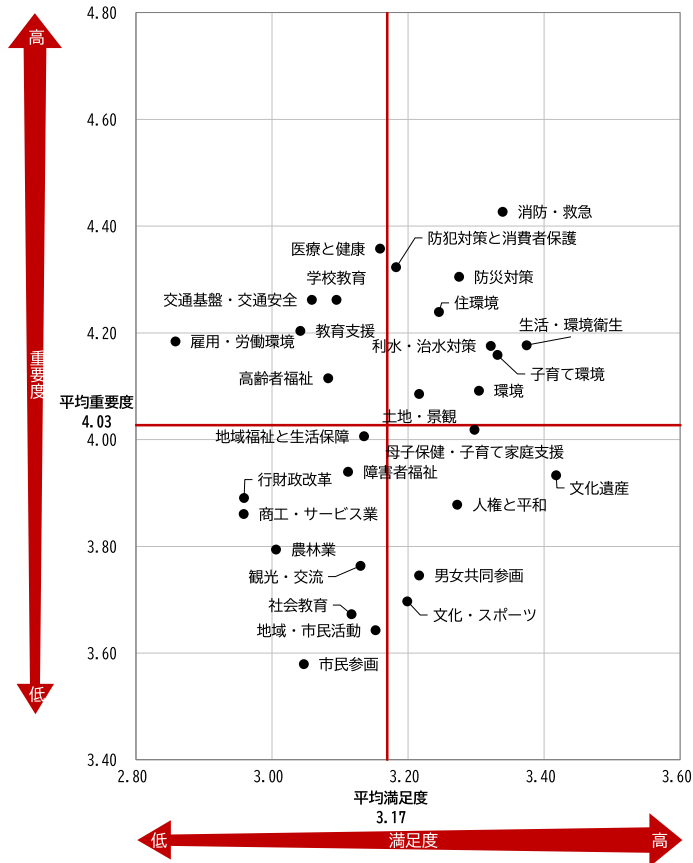
【ライフステージ別】①子どもなし



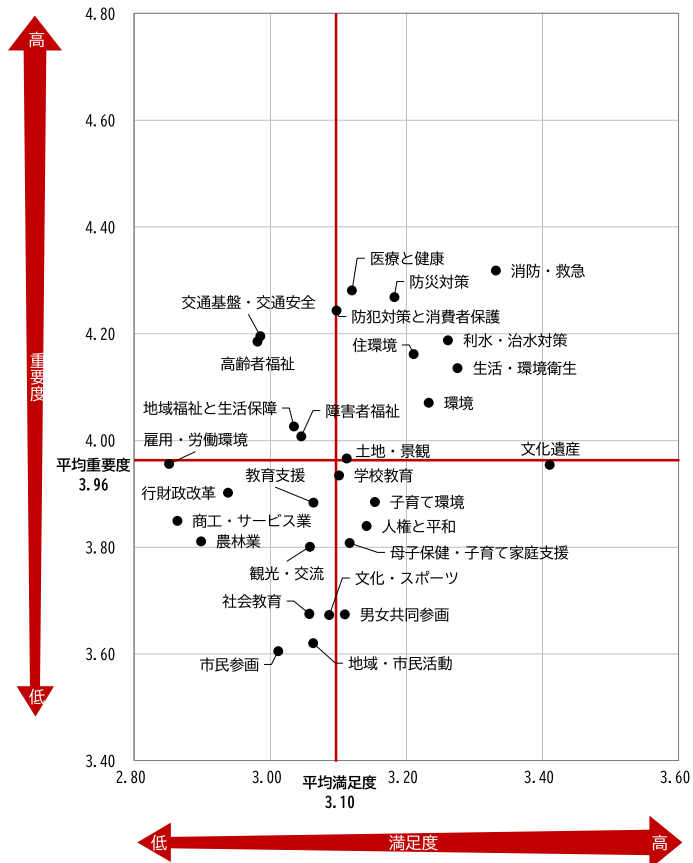
【ライフステージ別】②末子が小学校入学前または小学生



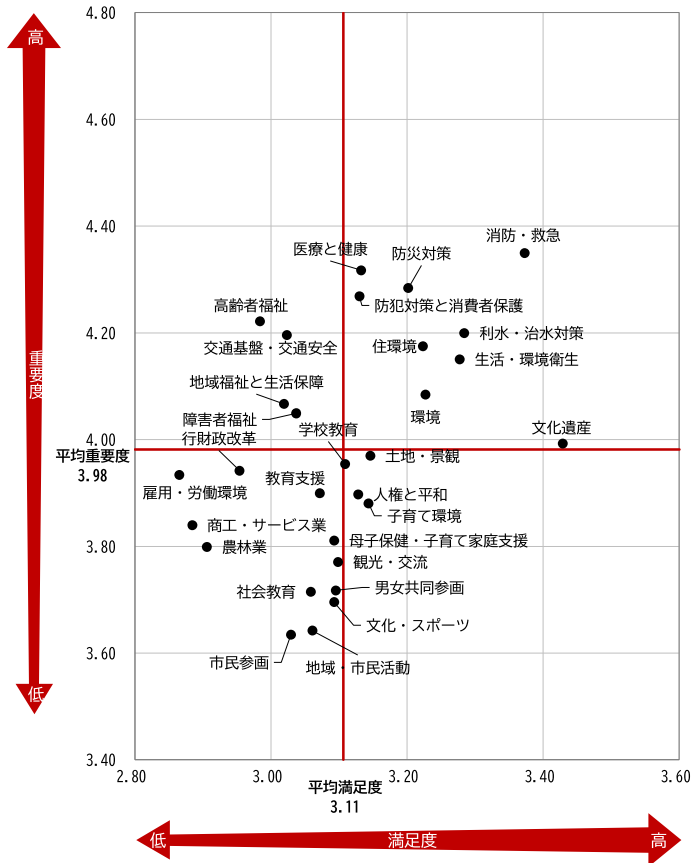
【ライフステージ別】③末子が中学生から専門学生または大学生



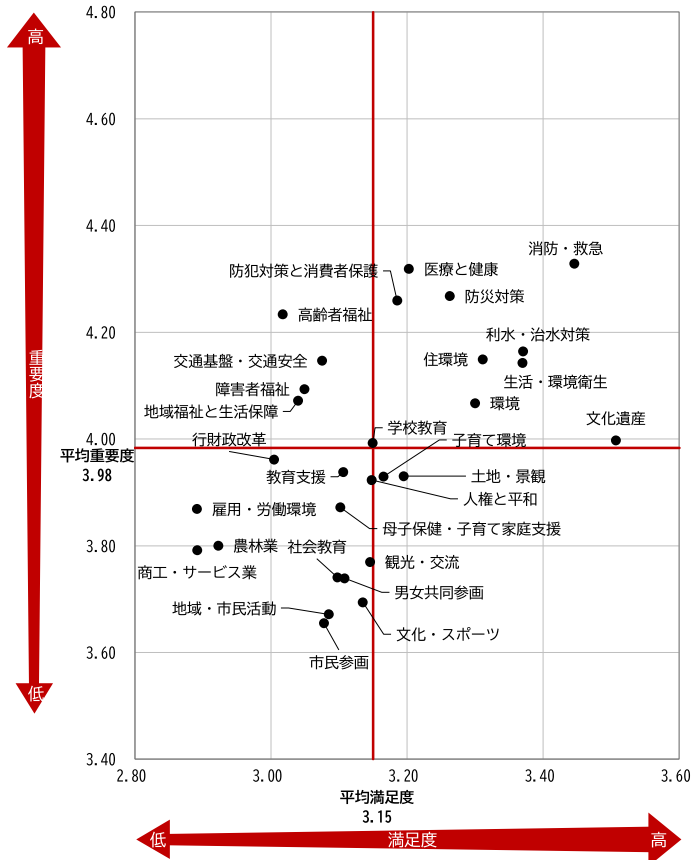
【ライフステージ別】④末子が学校教育終了またはその他



【年齢別（60歳以上）】（問14×F2）



【年齢別（70歳以上）】（問14×F2）



4. 奈良市への愛着や誇りについて (問 15~18)

テーマの結果概要

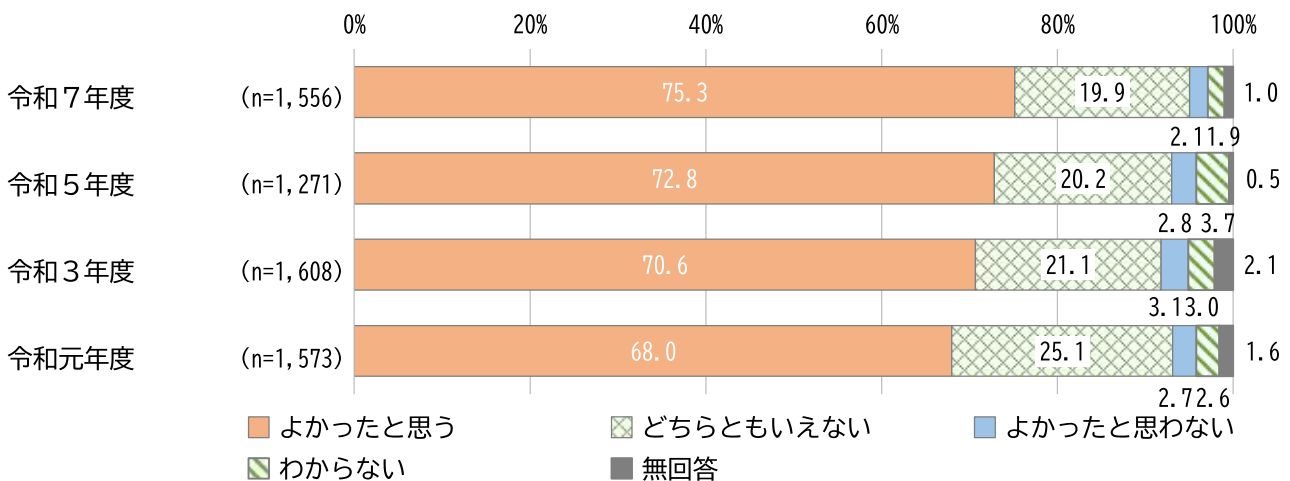
- 奈良市に住んでよかったと思うかについて、「よかったと思う」が75.3%と最も高くなっています。過去の調査と比べると、「よかったと思う」は増加傾向となっています。(問 15)
- 奈良市に愛着を感じているかについて、「強く愛着を感じる」(24.4%)と「ある程度愛着を感じる」(60.3%)の合計が84.7%となっています。過去の調査と比べると、令和3年度から今回にかけて増加傾向になっています。(問 16)
- 奈良市にあてはまるイメージについて、「伝統的」が66.6%と最も高く、次いで「ゆったりとした」が52.8%、「保守的」が45.5%となっています。(問 18)

Pick Up 1 : 奈良市に住んでよかったと思うか (問 15)

(1) 単純集計

奈良市に住んでよかったと思うかについて、「よかったと思う」が75.3%と最も高くなっています。

過去の調査と比べると、「よかったと思う」は増加傾向となっています。

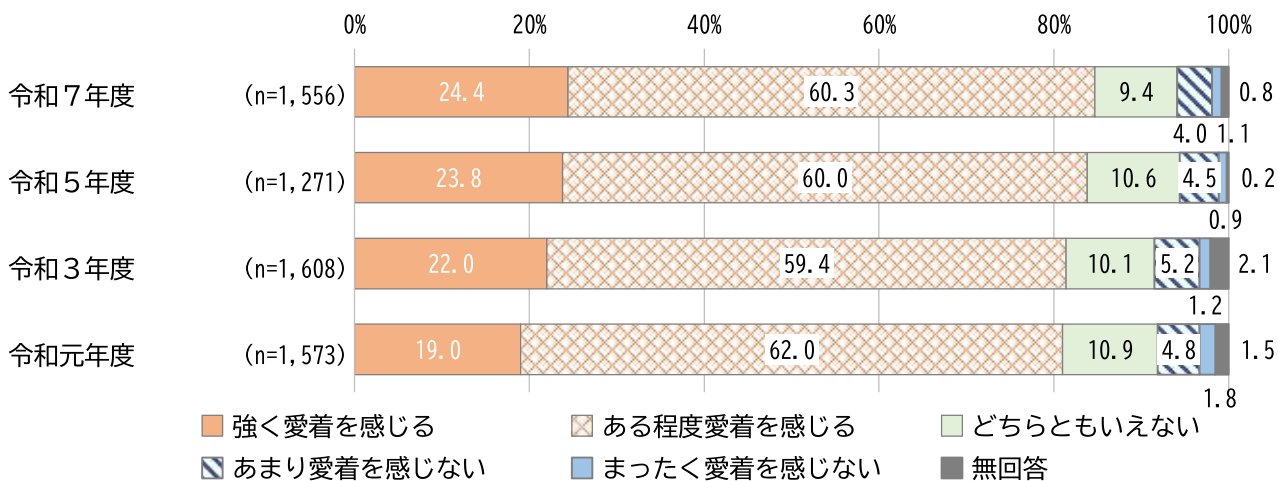


Pick Up 2 : 奈良市への愛着 (問 16)

(1) 単純集計

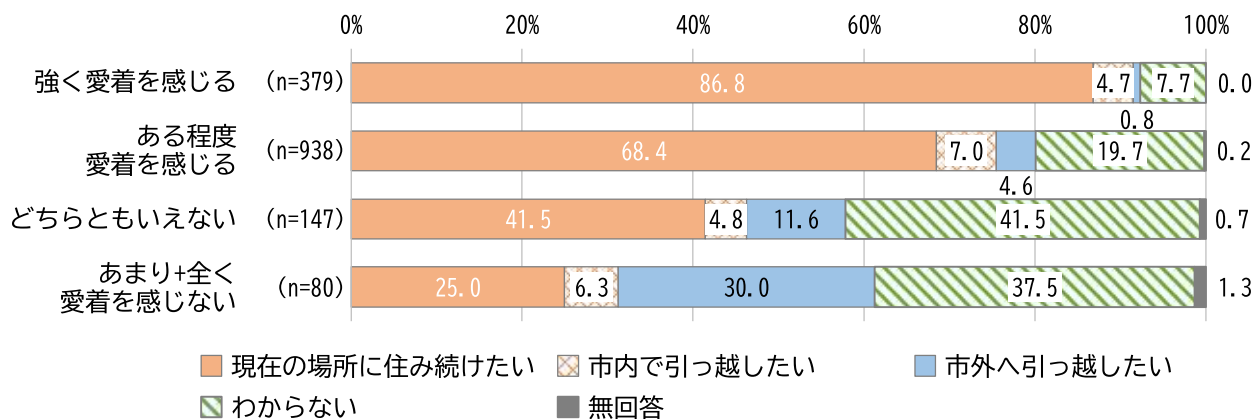
奈良市に愛着を感じているかについて、「強く愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」の合計が 84.7%となっています。

過去の調査と比べると、令和3年度から今回にかけて増加傾向になっています。



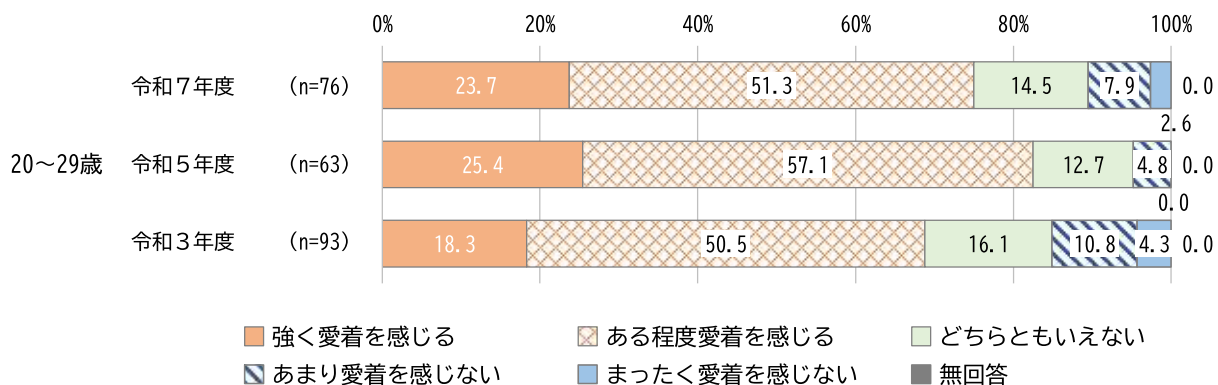
【奈良市への愛着別】 これからも住みたいか (問4×問16)

奈良市への愛着別にこれからも住みたいかをみると、愛着を感じる層ほど「現在の場所に住みたい」が高くなっており、「強く愛着を感じる」で 86.8%、「あまり愛着を感じない」+「全く愛着を感じない」で 25.0%となっています。



(2) クロス集計 年齢別 (20～29 歳) (問 16×F 2)

年齢別では、「強く愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」の合計はいずれの年齢でも 8～9 割台ですが、20～29 歳は 75.0%と低くなっています。20～29 歳を過去の調査と比べると、「強く愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」の合計が令和 5 年度から今回にかけて減少しています。



この冊子に掲載していない情報やより詳しい結果は、「奈良市民意識調査結果報告書」として、奈良市役所総務課内の行政資料コーナーでご覧いただくことができるほか、奈良市ホームページにて公開しています。

【令和7年度 奈良市市民意識調査結果報告書 概要版】

発行：奈良市 総合政策部 総合政策課

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号